

- ・データ連携基盤（ダッシュボード）の創出
- ・以上を安全安心な形で実装するためのセキュリティの確保

今後取り組むべき施策として、
先進的な取り組みを希望する自治体と意欲的な民間企業との連携を促し、
次世代の校務 DX に関するモデルケースの創出などを掲げています。

過渡的な取り組みとして、できるところから校務の情報化を積極的に進め、
教職員の負担軽減などにつなげる必要があるとしています。

例えば、会議資料のペーパーレス化や、クラウドツールを活用して、
保護者への連絡・情報交換を実施することなどが挙げられています。

文部科学省は、校務での ICT 活用場面が増えることは、
教職員の ICT リテラシーを高められるため、ICT を活用した授業などで
良い効果を与えられるのではないかと考えられるとしています。

▼GIGA スクール構想の下での校務 DX について
～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～
https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_jogai01-000027984_001.pdf

◇◆ トピックス (2)
文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」を公表
.....◆◇

文部科学省は 3 月 31 日、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」
(COCOLO プラン) を公表しました。

令和 3 年度の調査によると、小・中・高等学校の不登校数が、
約 30 万人に急増しています。

そのうち 4.6 万人の小・中学生が、90 日以上の不登校であるにも関わらず、
学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていないことがわかりました。

以上の結果を踏まえ、文部科学省は、不登校により学びにアクセスできない
子供たちをゼロにすることを目指し、COCOLO プランを取りまとめました。

COCOLO プランでは、以下の取り組みを行います。

- (1) 不登校の児童・生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

GIGA スクール構想により、各校に一人1台端末と高速ネットワーク通信の環境が整った。文部科学省は、一人1台端末は令和の学びのスタンダードだとしているが、児童・生徒は授業の中でどの程度端末を活用しているのだろうか。令和4年度全国学力・学習状況調査では、児童・生徒に「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか。」と質問紙調査を実施した。その結果、「ほぼ毎日」と回答したのは、小学校で26.9%、中学校で22.4%であった。「週3回以上」は、小学校で31.5%、中学校で28.9%であった。鉛筆やノートと同様の文具としての活用というには、程遠い数値ではないだろうか。さらに、「月1回未満」と回答した児童・生徒も、小・中学校でそれぞれ5%程度いた。これはせっかく整備された端末をほぼ活用していない状況であることを示している。

これらのことから、インターネットに接続された端末を活用して、さまざまな情報を収集したり、それらの情報を整理・分析したり、分かりやすくまとめたりする経験をたくさん積み、力をつけている児童・生徒と、そうではない児童・生徒の差が大きく広がっていくことが危惧される。教育の機会均等が第一義的な目標である義務教育において、これは看過できない状況である。原因はさまざまであろうが、教師の考え方が端末の活用にブレーキをかけている状況もある。

かの俳人松尾芭蕉は俳諧の理念として「不易流行」を掲げた。先日、ある研修会において、この言葉を使っていた教師がいた。アナログが「不易」、デジタルが「流行」だとした上で、デジタルのような流行に踊らされるのではなく、不易こそが教育の本質であるので、端末の活用には懐疑的だ、といった趣旨の発言をしていた。

不易流行とは、「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと」(三省堂 新明解四字熟語辞典)である。不易と流行は相反するものではない。

新しく変化を重ねているものを取り入れていくことで、
本当に大事な不易が実現しやすくなることもある。
例えば、一人一人の子供を大事にしたい、一人一人に力をつけたい、
といった思いは教師ならば誰もが持っているだろう。
時代を超えて普遍的なこうした教師の思いを不易とするならば、
デジタルツールがあることで、教師の手元で一人一人の様子を
リアルタイムに把握しやすくなったり、
AIドリルで一人一人の理解度に応じた問題が出しやすくなったりする。
不易として大事にしたいことは、
実は流行を取り入れることで、より近づくこともできる。

教師の考え方がアクセルとなり、児童・生徒が一人1台端末を
日常的に活用して力をつけていくことを願っている。

◆ 執筆者プロフィール ◆

山梨大学 教育学部・准教授。博士（学術）。
山梨県公立学校教諭、台北日本人学校（台湾）教諭、常葉大学講師等を経て現職。
専門は教育工学（特に学びのデジタル化、授業デザイン）。
文部科学省 ICT 活用教育アドバイザー等を務める。

▽ 学校 ICT に精通した先生方の書き下ろしコラム

>> <https://school-security.jp/column/>

……◆◆ 【最新版】「個人情報漏えい事故の発生状況調査報告書」を公開 ◆◆……

ISEN では、2022年11月18日に「令和3年度 学校・教育機関における個人情報漏えい
事故の発生状況」調査報告書（第2版）を Web 公開しました。

>> https://school-security.jp/leak_all/

<事務局>

教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会（ISEN）

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 2 階（株式会社 JMC 内）

<https://school-security.jp/>

▽「教育の情報化や学校情報セキュリティ対策」にご興味をお持ちの方が
いらっしゃいましたら、本メールマガジンをご紹介ください。

メルマガ登録フォーム：<https://fs220.xbit.jp/y592/form2>

▽ 個人情報の取り扱いは下記リンクをご参照ください。

<https://school-security.jp/privacy>

▽ お問い合わせ・配信停止・メールアドレスの変更は、

下記フォームよりご連絡ください。

<https://fs220.xbit.jp/y592/form3>